

地域に貢献し続ける「100年企業」を目指す

根本電興株式会社 代表取締役 根本 暁生 氏



茨城県常陸太田市に本社を構える根本電興株式会社は、地域に貢献し続ける電気工事会社として、今年で創業70周年を迎えました。同社は技術力の高い20~30代の若手社員が多く在籍しており、非常に勢いのある会社です。

震災時に「電気工事会社なのに、電気が使えない」という状況に直面した同社は、震災から2年後、非常用電源装置「あんしん君」を開発しました。さらに、その後、非常時の大規模電力需要にも耐え得る産業用電源装置「お天道さんの恵み」を開発するなど、お客さまに技術と安心をサービスし続けています。

これからも地域に貢献し続ける「100年企業」を目指す同社の取り組みを取材しました。

インタビュー日：2018年8月7日
〔聞き手：筑波総研(株) 専務取締役 藤咲耕一〕
〔文・写真：筑波総研(株) 研究員 富山かなえ〕

企業概要

本社：茨城県常陸太田市国安町 1284-1
営業所：茨城県常陸大宮市工業団地 26-2(大宮営業所)
茨城県結城市結城 11484-3(結城営業所)
創業：1948年(昭和23年)4月
設立：1971年(昭和46年)7月
従業員：27名
事業内容：①電気・通信設備及び消防施設工事の設計・施工
②太陽光発電設備・蓄電池設備・LED(省エネ)設備の設計・施工
③空調設備の設計・施工
④非常用電源装置「あんしん君」の製造・販売
⑤産業用電源装置「お天道さんの恵み」の開発・設計・施工

根本社長が事業に携わるまでのご略歴や創業の歴史などについてお聞かせください。

幼い頃から家業を継ぐことを意識

私は水府村(現 常陸太田市)の天下野地区に生まれ、地元の水府中学校、茨城県立太田第一高等学校を卒業しました。

実家は、祖父の代から続く電気工事会社でした。私は長男だったこともあり、幼い頃から家業を継ぐことを意識しながら過ごしました。

大学は電気工学の基礎を学ぶため、工学院大学工学部電気工学科に入学し、電気に関する幅広い知識を習得しました。

卒業後は、大手電気設備工事会社の六興電気株式会社(本社：東京都港区)に入社しました。同社では、静岡支店、横浜支店、本社設計部での勤務、設計事務所への出向などを通じて多くの経験を積みました。そして、30歳の時に当社へ入社、2015年(平成27年)に3代目の社長に就任しました。

地域に貢献し続ける企業として70周年

当社の創業は1948年(昭和23年)で、初代社長は私の祖父・侂勇です。実家は農家を営んでいましたが、祖父は若くして東京に行き、電気工事の技術を習得して地元に戻ってきました。

当時、水府村の山間地域では、まだ電気が通っていない地区がありました。先代は全村に電気を届けるために、長年尽力したと聞いています。

また、先代は自転車の後ろに工具や材料を積んで、電気が通った地域の家々を回り、建屋に電気を引き込む工事や屋内照明の取り付け工事なども行いました。

「うちの家の照明は、侂勇さんに付けてもらったんだ」と、当時のことを覚えていてくださるお客さまの声を聞くと、大変嬉しく、また、誇らしい気持ちになります。

当社は2代目で現 取締役会長の正人、そして3代目の私が祖父の意思を引き継ぎ、堅実に事業を進め、おかげさまで今年創業70周年を迎えることができました。

今後も地域に貢献し続ける電気工事会社として、社訓である「技術と安心をサービスします」を胸に、「100年企業」にむけて挑戦して参ります。

事業内容や施工事例、人材育成などについてお聞かせください。

お客さまの生活を支える電気工事

当社の主な事業内容は、電気・通信設備及び消防施設工事の設計・施工をはじめとして、太陽光発電設備・蓄電池設備・LED(省エネ)設備の設計・施工、空調設備の設計・施工、非常用電源装置「あんしん君」の製造・販売、産業用電源装置「お天道さんの恵み」の開発・設計・施工です。

市内に新設された「金砂郷地区統合中学校」では、当社が校舎内の電気照明設備の取り付け工事や太陽光パネルの設置、弱電通信設備などの全体的な電気設備工事の施工を請け負いました。

普段は見ることはありませんが、建物の床や天井内部には、多数の電気配線が埋め込まれています。電気はお客さまの生活を明るく便利にするために必要なインフラの一つであり、電気工事業者は、社会からその安全な施工が求められています。

若い社員の高い技術力が最大の強み

当社の強みは、技術力の高い20~30代の若手社員が多く在籍していることです。この年齢層は全社員の半数以上を占めています。これは現会長が社長だった時代、どんなに苦しい状況でも継続して若者を採用・育成し続けた成果です。

当社の有資格者は、1級電気工事施工管理技士が10名、2級電気工事施工管理技士が1名、第一種電気工事士が13名(1・2級電気工事施工管理技士を含む)、消防設備士が1名、特殊電気工事資格者(非常用予備発電装置工事)が1名、高圧ケーブル工事技能認定者が10名、他社では珍しい蓄電池設備整備資格者が3名在籍しています。



施工事例 常陸太田市本庁舎受変電・非常用発電設備電気工事の様子(写真提供：根本電興株式会社)

【社会で役立つ技術者を育てる】

電気工事に関する資格は、業務を担当する際に必ず必要となります。当社では、社員の資格講習会など勉強会への参加を推奨し、その費用は会社負担、および資格手当を支給するなど、社員の資格取得支援とモチベーション向上に努めております。

私の一番の願いは、社員が当社に在籍し続け、ともに事業を進めてくれることです。しかし、家庭の事情などで、手塩にかけて育てた社員が会社を退職せざるを得ない場合もあります。

私は、その社員が次の職場に入社した時「さすが根本電興で働いていただけあるね！」と褒めていただけるよう、常に会社だけでなく、社会の役に立ち、豊かな人間力を兼ね備えた有能な技術者の育成を行いたいと考えています。

今後も全社を挙げて、社員の育成と若い人財の積極的な採用に力を入れて参ります。

【事業の転機となった非常用電源装置「あんしん君」誕生のきっかけについてお聞かせください。】

【「電気工事会社なのに、電気が使えない】

当社の周辺は、風光明媚な景色が広がる一方、市街地と比べて仕事量は少なく、今後も市内・市外それぞれでの業務獲得に力を入れていかなければなりません。

しかし、県内には多くのライバル企業が立地しているため、当社が「100年企業」として生き残るためには、他社との差別化を図る新たな事業にチャレンジする必要がありました。

そこに東日本大震災が発生し、当社は停電の被害を受け、4日間、お客さまからの電話依頼を受けられない状態が続きました。私は「電気工事会社なのに、電気が使えない」という事実と直面し、愕然としました。

震災後、当社は、お客さまから停電時に困ったことをヒアリング調査しました。すると、お肉屋さんの店長からは「冷蔵庫だけは守りたかった」、ガソリンスタンドでは「給油ポンプは動かしたかった」、事務所では「最低限の事務機能は残したかった」などの意見が寄せられ、非常時に必要とする電源は、お客さまごとに異なることが分かりました。

【「非常時の安心」を低価格で提供】

当社はお客さまの非常時のニーズに応えたいと奮起し、震災から2年経った2013年（平成25年）、以前から試作を繰り返していた非常用電源装置「あんしん君」の販売を開始しました。

「あんしん君」は、タイマーで自動充電できる仕組みを備えているため、バッテリーは常に満タンとなっています。通常は補助電源として使いながら充電し、停電時には自動で非常用電源に切り替わります。



非常用電源装置「あんしん君」を説明する根本社長(左)

製品タイプは、出力が600Wと1,000Wの2種類を用意しました。1,000Wタイプでは、最大でノートパソコンを65時間、テレビを13時間、携帯を200回充電でき、冷蔵庫・冷凍庫の非常用電源としても利用可能です。

「あんしん君」は、ホームセンターで購入できる木製の扉付き2段棚の中に、蓄電池やインバーター、充電器などを搭載しています。汎用品を使用することで、一般家庭にも導入しやすい価格帯に抑えることができました。

また、移動に便利なキャスターを付けたほか、遠方のお客さまにも郵送できるよう、重量は宅配便の制限値である50kg以下に抑えています。

現在、「あんしん君」は、薬品用冷蔵庫の非常用電源として、龍ヶ崎市保健センター様をはじめ、同市の村井医院様や龍ヶ崎大徳ヘルシークリニック様などでも導入していただいております。

当社の非常用電源は、他社製品と比べて安価なため、多数の問い合わせをいただいております。今後も隠れた需要発掘のために、ダイレクトメールの発信やインターネットでの販売展開など、営業活動の拡充と強化を図りたいと考えています。

【事業用非常用電源装置「お天道さんの恵み」の特徴などについてお聞かせください。】

【電気“地産地消”で、非常時も事業を継続】

「あんしん君」の発表後、当社は非常時の大規模電力需要にも耐え得る、加えて、非常時だけでなく常用として使用できる産業用電源装置「お天道さんの恵み」の開発に乗り出しました。

この装置は、屋間に太陽光パネル（トップ写真）で発電した電気を鉛蓄電池に送り、インバーターで直流/交流に変換後、照明やコンセントなどに利用する単相の「電灯用電源」と、エアコンや機械設備を動かす三相の「動力用電源」を供給するシステムを搭載しています。

また、夜間及び発電量の少ない雨天時は、バッテリーから電気を補う仕組みとなっています。

「お天道さんの恵み」は、いつでも電気の“地産地消”ができるため、電気料金の抑制や長時間の停電対策（BCP対策）などが必要な企業や役所、工場、病院などへの導入に最適です。



産業用電源装置「お天道さんの恵み」を説明する根本社長(右)

【「オーダーメイド型」でニーズを掴む】

大手企業製の電源装置は、最初から発電容量が決められたものが多く、装置の値段や設置費も高額です。

一方、「お天道さんの恵み」は、お客さまの電気使用状況に合わせた発電容量を設定できます。また、日本製・海外製の良質な資材や部品で装置を構成しているため、大手企業製の半分以下の価格でご提供できます。

さらに、設置からメンテナンスまで当社が一貫して行うため、お客さまからは導入後も安心してご利用いただけるとご好評をいただいております。

【最後に、今後の事業戦略の鍵となるもの、目指す企業像などについてお聞かせください。】

【新たな分野への挑戦と新事業所の開設】

今後の事業戦略の一つとして、当社の電源装置「お天道さんの恵み」を農業や畜産業の振興にも活かしたいと考えています。農業用ハウスや畜舎では、温度などを機械設備で管理するため、多くの電気代がかかります。また、もし長期停電が発生した場合、その損害額は耐えるものではないと想像します。

そこで、電気を“地産地消”する「お天道さんの恵み」を活用し、非常時の安心を提供するだけでなく、常用電源として活用することで農家や畜産農家の所得向上にも貢献したいと想いを巡らせています。

また、2018年（平成30年）、結城市に新たな事業所を開設しました。今後は県北・県東地域のみならず、県西地域のお客さまの「安心な暮らし」を当社の確かな技術力で支えていきたいと考えております。

【社員とともに「100年企業」を目指す】

現在、私は、茨城県商工会青年部連合会の会長を仰せつかっており、県内の経営者仲間からは、「後継者不足で商売の継続が厳しい」など様々な課題を抱える声が聞こえてきます。

今後、この地域でも人口減少や業務量の減少が予想されます。その中で、当社は、時代と地域の変化を読み解き、先進技術や新分野などへの挑戦、そして当社の社訓である「技術と安心をサービスします」をご提供し、地域・社会に貢献することで、社員とともに100年続く企業を目指して参ります。

【この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。】



根本暁生社長(中央右)、根本正人会長(中央)、総務部根本雄生様(中央左)、太田支店 榎村支店長(右)と聞き手・藤咲耕一